

仙台青葉まつり

仙台では、毎年 5 月、音楽、踊り、そして笑い声で、仙台市を築いた大名、伊達政宗公（1567-1636 年）の活気ある祭りが街の中心部で執り行われます。仙台青葉まつりは、伊達政宗が亡くなった 5 月 24 日の前の週にあたる週末の 2 日間に開催されます。

土曜の晩に色鮮やかな踊りの行進で始まり、凝った装飾が施されている山鉾と大名行列の再現が印象的なパレードで日曜にクライマックスを迎えます。仙台青葉まつりは、歴史的な伝統を保全するものであり、山鉾と呼ばれる地域特有の祭りの山車や 1603 年を起源とする祝いのすずめ踊りが取り入れられています。

仙台すずめ踊り

初日の晩に行われるすずめ踊りは、祭りのメインイベントです。すずめ踊りは先祖代々の石工により継承されているもので、1603 年の青葉城建造を祝うために行われた宴の席で披露された即興の踊りが進化したものだと考えられています。すずめ踊りの振りには、伊達家の家紋で表現されているすずめの軽やかな舞いを彷彿とさせる軽いジャンプなどが取り入れられています。

山鉾まつり巡行

2 日目には、高さ約 7 メートルの山鉾という 11 台の山車が、音楽と踊りに合わせて街中を進みます。木造の山車は一般的に赤色か黒色で、さまざまな装飾が施されています。数人が上に乗り、伝統的な祭り衣装を着て楽器を演奏します。各山鉾にはテーマがあり、目玉となる装飾が施されています。大きな三日月の兜を模した政宗公兜山鉾など、伊達政宗公を称えたものもあれば、商売繁盛、大漁追福、五穀豊穡の神である恵比寿様などの観音様をテーマにしている山鉾もあります。記録によれば、山鉾は江戸時代（1603–1867 年）における仙台の定番的な祭りでした。

行列

江戸時代の衣装に身を包んだ何百人もの演者たちが、伊達政宗公が戦地に赴き、青葉城を後にした際に繰り広げられた大名行列を再現します。行列は、弓隊、槍隊、銃隊の一団が仙台駅の近くを出発すると始まります。その後ろを歩くのは、政宗公の生涯の各時期や育った場所、政宗公の活躍の立役者となった人物などを象徴する、甲冑に身を包んだ一団です。この壮観はまさしく政宗公を讃え、仙台の遺産を記念するものです。行列の後、山鉾巡行などの他の行事が続きます。